

日本ユネスコ協会連盟 「プロジェクト未来遺産 2023」 登録証伝達式 & 備中とと道トレイル・サミット

於 高梁市成羽町 たいこまるプラザ 伊藤記念ホール 入場自



式次第

第1部 (13:30-14:15)

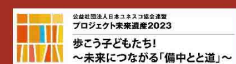
- ▶日本ユネスコ協会連盟
「プロジェクト未来遺産 2023」登録証伝達式
- ▶とと道紹介ビデオ「とと道=歩こう、愛そう
いつまでも」放映
曲：高梁「とと道」/音楽：守時タツミ
- ・未来遺産運動概要説明
- ・選考理由
- ・登録証授与
- ・登録団体挨拶
- ・来賓ご紹介
- ・閉会の言葉

第2部 (14:30-16:00)

- ▶備中とと道トレイル・サミット 講演会
- ・神崎宣武氏
「吉備高原の風土と歴史」
- ・西山徳明氏
「“備中とと道トレイル”の生み出した
新たな価値とその未来」



主催：日本ユネスコ協会連盟
備中とと道トレイル推進協議



備中とと道トレイル・サミット講師ご紹介

■ 「吉備高原の風土と歴史」

..... 神崎 宣武 氏

1944年、岡山県生まれ。民俗学者。

国土審議会専門委員、文化審議会委員、公益社団法人伝統文化活性化国民協会理事、旅の文化研究所長などを歴任し、現在、東京農業大学客員教授、公益財団法人伊勢文化会議所五十鈴塾塾長、岡山県文化振興審議会委員などをつとめる。

岡山県宇佐八幡神社宮司でもある。

主書に、「三三九度－日本的契約の民俗誌」（岩波書店）、「まつりの食文化」「社を持たない神々」「旅する神々」（角川選書）、「酒の日本文化」「日本人の原風景－風土と信心とたつきの道」（講談社学術文庫）などがある。

「私たちは、“古代吉備”の歴史をつないできている。1000年以上も経っているのに、随所にその面影がうかがえるのである。

古代吉備は、古墳群が示すようにその土地土地に有力者が群雄割拠するかたちでいたが、闘争が生じることはほとんどなかったようだ。いわば自治的な勢力圏が共存していた、と想定できる。それは、より巨大な大和の勢力や出雲の勢力との大きな軋轢や抗争が生じなかったことにも通じるだろう。経済的にも恵まれていただろうそこでは、それぞれに文化土壌も醸成していた、といえるのではなからうか」

（「とと道見聞録」所収 P4より抜萃）

■ 「備中とと道トレイルの生み出した新たな価値とその未来」

..... 西山 徳明 氏

1961年福岡市生まれ。

京都大学工学部建築系学科卒業。同大学院博士課程満期退学、博士（工学）、九州芸術工科大学・九州大学教授を経て2010年より北海道大学観光学高等研究センター教授。

専門分野は建築・都市計画学、観光デザイン、文化遺産マネジメント。

歴史的集落・町並みや文化遺産地域での観光まちづくりに関するフィールド研究、ヨルダン、フィジー、ペルー等の世界遺産地域での観光開発国際協力を展開中。

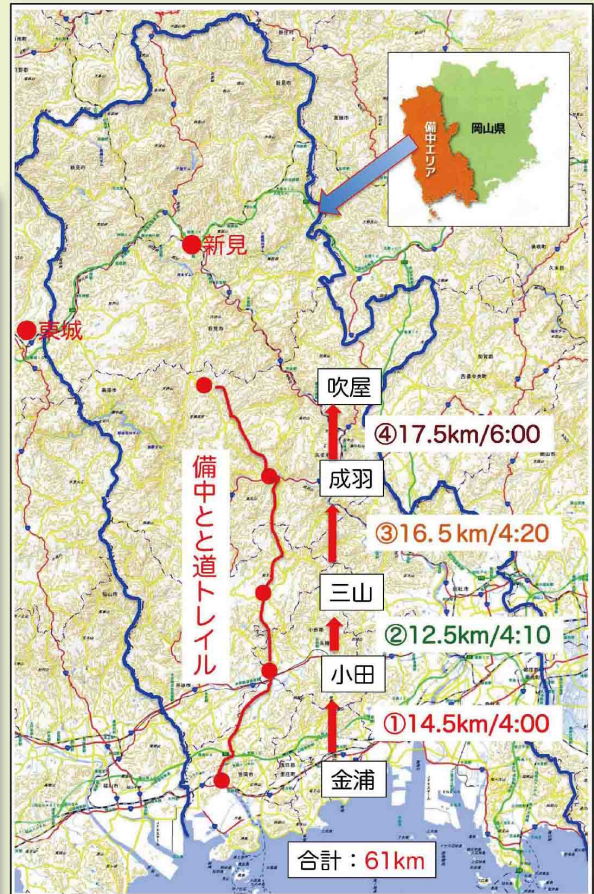
社会活動としては文化庁文化審議会専門委員、国土審議会専門委員、下郷町伝統的建造物群保存審議会委員、白川村景観審議会会長等を歴任。

「メンバーは古い地図、道標、祠、地蔵、そして辻堂などを頼りに史実を確かめ、地図上で同定し、「とと道」を現代において実際の空間である「歩く道」として蘇らせた。大変な苦労があっただろうがそれを楽しみ、道にまつわる時空を超えた様々な事象を多くの世代と共有しようとする姿に頭が下がった。

民間の好事家達から始まった地道な活動であったが地域住民の協力により維持され、周辺の地域からも多くの参加者が恒例のウォーク大会に集うようになり、地元の学校生徒にも参加する動きが出始めているという。それを知って、この活動は持続可能性が高いと思った」

（「備中とと道トレイルガイドブック」所収 P5より抜萃）

日本ユネスコ協会連盟 「プロジェクト未来遺産 2023」 登録証



かつてのとと道運送システム

魚仲仕は、夕方笠岡の金浦魚市場で競り落とされた鮮魚を丸い竹籠に入れ、天秤棒の両端に吊るして夜の9時に出発。重さは一人当たり40kgほどもありました。

5～6人が一組となって、小田、三山、成羽を経由、途中6ヶ所ほどの中継所で次の運送人へと引継ぎながら運び、都合12時間、翌朝の9時には吹屋に到着しました。

道は吉備高原の山坂をいとわず、ほぼ一直線に北上する厳しいルートでした。魚仲仕の賃金は一般の日雇い賃金の5倍以上（明治25年頃、日雇い賃金4銭に対し20銭、三山から成羽へは26銭と3合の米代）もあったそうです。

とと道の歩き方

とと道は全長60km。一気に歩けば18時間くらいかかります。いずれ「一気歩き」に挑戦、まずは4つのコースに区切って、公共交通機関を使い、気の向いた折に、気の向いたコースをぶらりと歩くことをおすすめします。

季節は運動不足になりがちな（草刈りの済んだ）晩秋から初夏（12～5月）がおすすめです。以下各コースの概要をお知らせします（詳細はガイドブックをご参照願います）。

推進協議会では会員用に毎年4回、バス+ウォークのハイブリッドウォーク大会も実施しています。HPで開催日をご確認ください。

ぶらり 備中とと道トレイル 4コースご案内

①瀬戸内コース

鮮魚輸送の出発地金浦から吉備高原の麓までの里山をゆく入門コース
JR笠岡駅→金浦→助実→古代の丘スポーツ公園→小田川→井原線小田駅(14.5km 4:00)



金浦・浜の住吉神社 助実(すけざね)への急登 化粧観音



どんぐり球場復活とと道 小田川

②里山コース

吉備高原への急坂を登り、広大な波浪状高原を縦断するドラマチックなコース
井原線小田駅→矢掛・宇内ホテル公園→角坂→毛野→三山八幡→(北振バス)→矢掛駅(12.5km 4:10)



小田市街北外れの江戸期の道標 矢掛・宇内 角坂 毛野・二股道標



美星・徳山牧場を行く 布東道標

③吉備高原コース

吉備高原の高みへ登り、ついで日名川の深い渓谷に下り、神楽の里を抜け、古くから一帯の物資の集散地だった成羽へと向かう上下コース。

井原線矢掛駅→(北振バス)→三山→洗場→保木上橋→神楽公園→下日名→成羽→(備北バス)→JR備中高梁駅(16.5km 4:20)



美星・三山の波浪状高原 あずきもちから洗場へ 西林国橋頭彰碑



サモトラケのニケ 本丁神楽通り たいこまるプラザ

④吹屋山岳コース

16体もの神楽像が並ぶ成羽市街を抜け、成羽川を渡るといよいよジャパンレッド・吹屋への急坂コースが始る。

JR備中高梁駅→(備北バス)→成羽→窓坂→宇治→吹屋→(備北バス)→JR備中高梁駅(17.5km 6:00)



窓坂手前から成羽市街俯瞰 窓坂 宇治・後谷



宇治・笹尾城址 吹屋通り 吹屋・山神社山門

■備中とと道トレイル推進協議会会員募集

日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」登録により100年後の子どもたちに「とと道」を伝えるという新たな目標が生まれました。その実現のためにはこの道を維持するヒト、歩き続けるヒト、そして愛するヒトが必要です。年間¥1,000の会費で協議会にご参加下さい。草刈り基金を積み上げ、夢を実現しましょう。詳細はHP、またはガイドブックP50をごらんください。

■備中とと道トレイルガイドブック&見聞録頒布場所

吹屋：カフェ燈 (0866-29-3050)、成羽：たいこまるプラザ観光案内所(0866-42-4325)
美星：青空市観光案内所 (0866-87-3349)、
矢掛：やかげ町家交流館(0866-63-4446)、やかげDMO(0866-83-0001)
笠岡：市役所内教育委員会 (0866-69-2153)

■総合案内事務局：TEL 080-3390-6935 HP:<https://www.totomichi.com/>